



夜が長くなってきました。灯火の下で本を開く心地よさは、慌ただしく過ごした日中の疲れを癒してくれます。今まで手にして来なかったジャンルの本を開いてみるのも楽しみ方の一つです。ぜひ図書館で、新しい一冊を見つけてお楽しみください。



企画展示

たかが帯、されど帯！

広告宣伝、販売促進が主な用途の本の帯。日本では当たり前になっていますが、作家で評論家の紀田順一郎氏によれば、現在判明している限り、大正3年（1914）に刊行されたものが最古で、白い紙に緑色の活字で一言「読め！」と書かれていたそうです。

今回は、素材、デザイン、サイズなど、様々な現在の本の帯を展示し、ブックデザイン関連の図書も合わせてご紹介しています。



いいなあ、と思った本の帯に、「いいね！」シールを貼ってもらっています。もちろん、この本も貸出できます！

讃岐の家庭料理



「うどんの曼荼羅風掛軸」



伊吹島などの暮らしの様子も写真で紹介



日本調理科学会設立 50 周年記念出版事業の取組みの一環で、食物栄養専攻の次田先生を中心に次世代に残したい家庭料理の聞き取り調査が実施されました。県内各地の家庭料理を地元の方々のご協力で作っていただき、写真家の高木あつ子さんが撮影されました。その時の写真パネルを展示しています。

郷土料理のしょうゆ豆を使ったレシピも配布中。ご活用ください。

私のおすすめ本

生活文化学科 教授

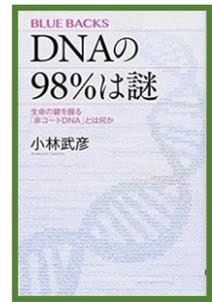
高儀 雅俊 先生

『DNAの98%は謎』

(ブルーバックス) 新書

小林武彦 著

講談社



私たち人間は、生物学的に言えば「ヒト」と表現され、ホモサピエンスと言う「種」に分類されます。生物の体を作っている設計図は、遺伝子であることは、現代社会で常識となっていると思います。遺伝子の本体は、高校で生物を履修した人は、DNA（デオキシリボ核酸）という、核の中にある酸性物質であることを学習したことを、覚えているのではないのでしょうか。

更に細かくDNAを見てみますと、五単糖というC(炭素)が5個の糖とリン酸、および塩基の3分子が結びついた構造(ヌクレオチド)が無数に結合し、らせん状の糸状となり、ヒストンという球状のタンパク質に巻き付き、さらに、それが重なって染色体を作っています。ヒトには23対、合計で46本の染色体があり、ここに、ヒトの全ての遺伝情報=遺伝子があります。

遺伝子とは、ヌクレオチド構造の塩基の並び方、即ち、塩基配列によって決まるとされています。塩基には、A(アデニン)、T(チミン)、G(グアニン) C(シトシン)の4種類があり、この4種類の塩基の並び方が遺伝情報です。この塩基の3個分が1つの遺伝子と考えられ、これによりアミノ酸の種類が決定され、細胞→組織→器官→個体という段階で生物体が造られます。この3つの塩基の配列をコドン(トリプレットコード)は細菌からヒトまで、全ての生物に共通と考えられています。この理論に基づき、ヒトの遺伝子(=塩基配列)を解析しようという「ヒトゲノム計画」が、20世紀末から始まりました。

ゲノム(genome)とは遺伝子(gene)と染色体(chromosome)をくっつけた用語ですが、「ヒトゲノム計画」は、アメリカ合衆国が中心となり全世界の協力の下、実行されました。クリントン大統領時代の2000年に、ほぼ全部のゲノム=塩基配列が解析されたとされています。ところが、その後の解析で、生物体としてのヒトを造る遺伝子に関するゲノムは全ゲノムの2%であり、残りの98%は遺伝子=DNAとして働いていないことが分かってきました。残りの98%のDNAは「非コードDNA」と呼ばれ、意味がないように思われてきましたが、徐々に、ヒトとサル(特に類人猿=チンパンジー、ゴリラ、オランウータン)との違いやその進化、及び、ヒトの老化や寿命等に関係していることが分かってきたようです。今後は、ガンの発生抑制や治療や薬など医療分野への応用だけでなく、その下支えとなる栄養等への応用利用も考えられるほか、「生物」という概念を変えていく可能性も考えられると思います。是非、本学の皆さんに読んでおいて欲しい、常識としての1冊です。

なお、講談社の「ブルーバックス(BlueBacs)」シリーズは、私が大学時代から、その時代の科学分野の事象をコンパクトにまとめた書物として利用させてもらいました。短大生のみなさんにも、ぜひ教養として十分活用できると思いますので紹介します。



司書のたまごが おススメする図書



司書資格取得を目指す学生4人が、
おススメの図書を紹介します！



古川 沙奈

(生活文化学科 生活文化専攻2年)

一般応募した回文にフジモトマサルがイラストをつけ、そこに中村航がショートストーリーを加えた珍しいコラボ作品。回文は、逆さから読んでも同じ文章になりますが、「稲妻はかつらに落下はまず無い」のように、意味の通らない文章がほとんどです。そんな回文を意味のある話につなげていき、短編集なのに一冊を通してひとつの物語を成立させています。気楽に読むことができ、不思議な気持ちになる作品です。

『まさか逆さま』

中村航 著 / フジモトマサル イラスト
キノブックス



岩佐 愛里

(経営情報科 情報ビジネスコース1年)

『似ていることば』

おかべたかし 文 / やまでたかし 写真
東京書籍株式会社



普段何気なく使っている似たことばや表現をわかりやすく写真で比べたのがこの本です。一つ一つに写真や、そのことばに関連した場所やものなども載っているので、本を開くだけでも楽しめます。見るだけで「なるほど」と感心させ、素敵と思わせるような写真や文章が掲載されており、面白いと感じ取れます。「あの言葉の本当の意味は何だろう」「使い方はあっているのかな」ということが気になる人にお勧めの本です。

二宮 佳奈子

(経営情報科 情報ビジネスコース1年)

「僕の父さんを信じて。決して僕たちを失望させないよ。」ハリー・ポッターと死の秘宝から19年。ハリーは3人の子を持つ父親となっていた。今作では次男のアルバス、そしてドラコ・マルフォイの息子スコープピウスが過去を旅し、物語を駆け抜ける。英雄の息子であるプレッシャーに苦悩するアルバスと、子供との向き合い方に悩むハリー。闇に捕らわれたままのスコープピウスとドラコ。2組の親子の心が通じ合うときは来るのだろうか。ハリー・ポッターシリーズ最新作から目が離せない。

『ハリー・ポッターと呪いの子 第一部・第二部』

J.K.ローリング、ジョン・ティファニー、
ジャック・ソーン 翻訳 松岡佑子
静山社



村山 雅理

(経営情報科 情報ビジネスコース1年)

『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾・千恵・はな
文藝春秋



自分の死が差し迫っていると知ったときあなたは一体何を思いますか？がんの告知を受けた千恵さんが想ったのは一人娘のはなちゃんの事でした。母を亡くした後でも娘が健康で強く生きられるような力を身につけさせよう、そういう思いからまだ4歳だったはなちゃんに包丁を持たせ家事を教え込みます。病に苦しみながらも前向きに生きようと努力し続ける千恵さんと必死でサポートし続ける家族の優しさを感じる話です。是非読んでみてください。

編集後記

電子書籍が普及し、その便利さを享受しつつも、やはり本は、中に書かれた文言だけではなくその装丁も共に楽しみたいものです。帯はブックデザインの一部としてデザインされることも多く、改めて見ると様々な趣向は大変興味深いもので、今後、本を手にする楽しみが増えました。

ご多用の中、ご寄稿くださった高儀先生、生活文化学科 古川さん、経営情報科 岩佐さん、二宮さん、村山さん、ありがとうございました。(F)